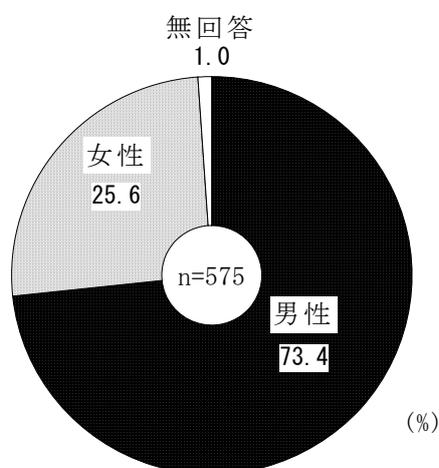


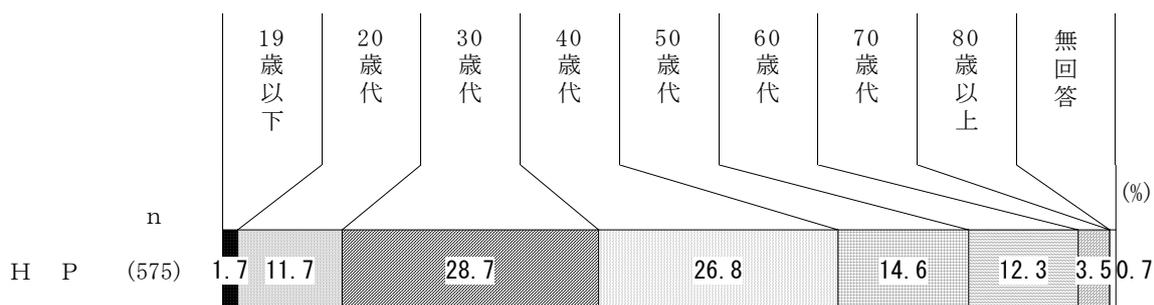
第4章 ホームページ調査結果

回答者の属性

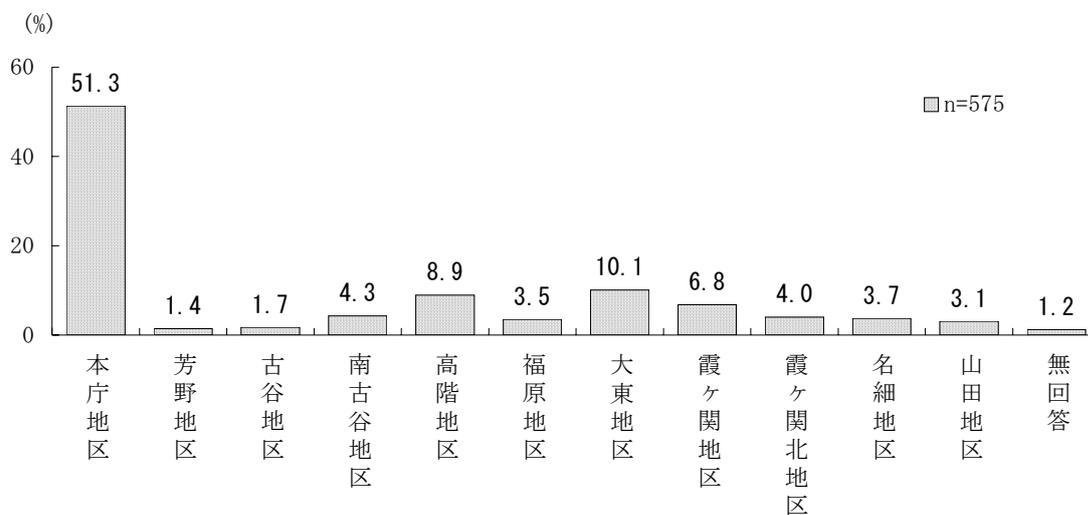
◆性別◆



◆年齢◆



◆居住地区◆



1. 市庁舎を移転する考えに関する認知度

問4 このアンケートより前に、市庁舎を移転する考えがあることをご存知でしたか。 (○は1つ)

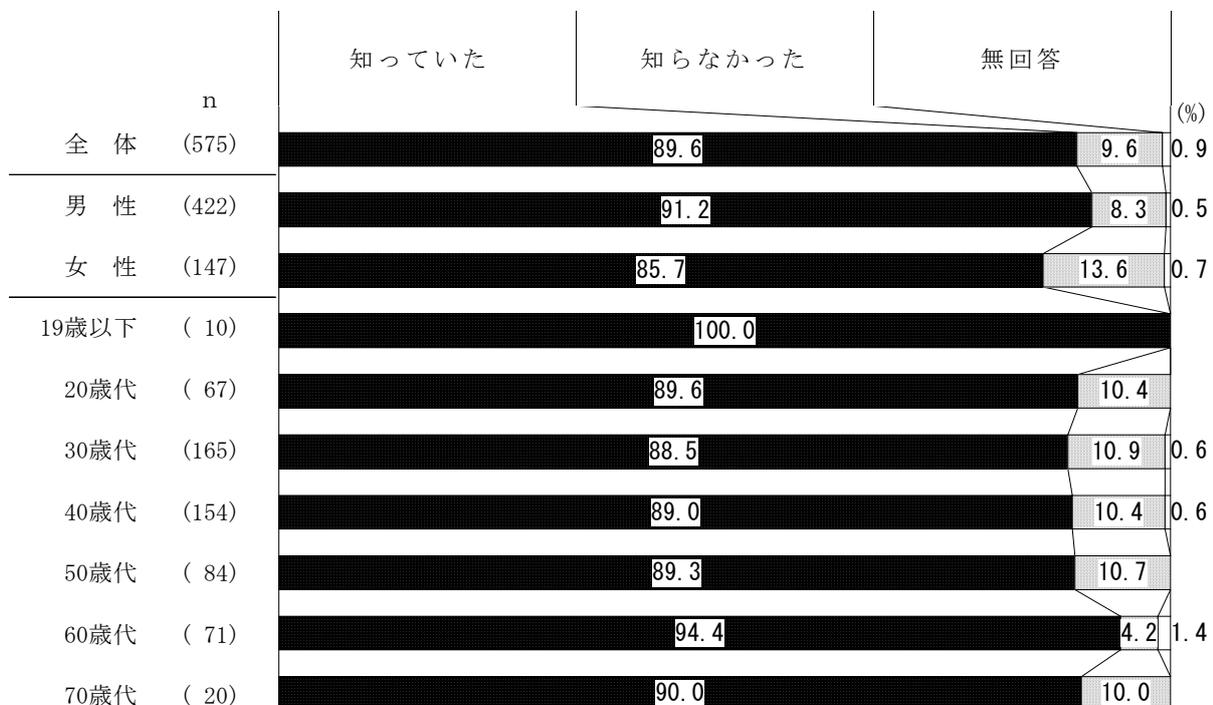
図表 1 - 1



市庁舎を移転する考えに関する認知度は「知っていた」が89.6%と約9割を占めており、「知らなかった」は9.6%となっている（図表1-1）。

性別では、「知っていた」は男性（91.2%）が女性（85.7%）を6ポイント上回る。年齢別でみると、「知っていた」はいずれの年代でも8割から9割台を占めて多くなっている（図表1-2）。

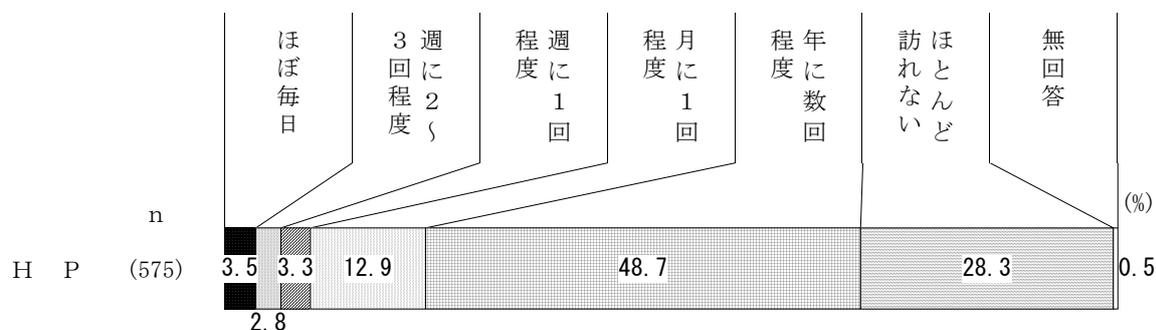
図表 1 - 2 性別、年齢別 市庁舎を移転する考えに関する認知度



2. 最近1年間での市庁舎の利用頻度

問5 最近、概ね1年間に、どのくらいの頻度で市庁舎に訪れましたか。
(○は1つ)

図表2-1

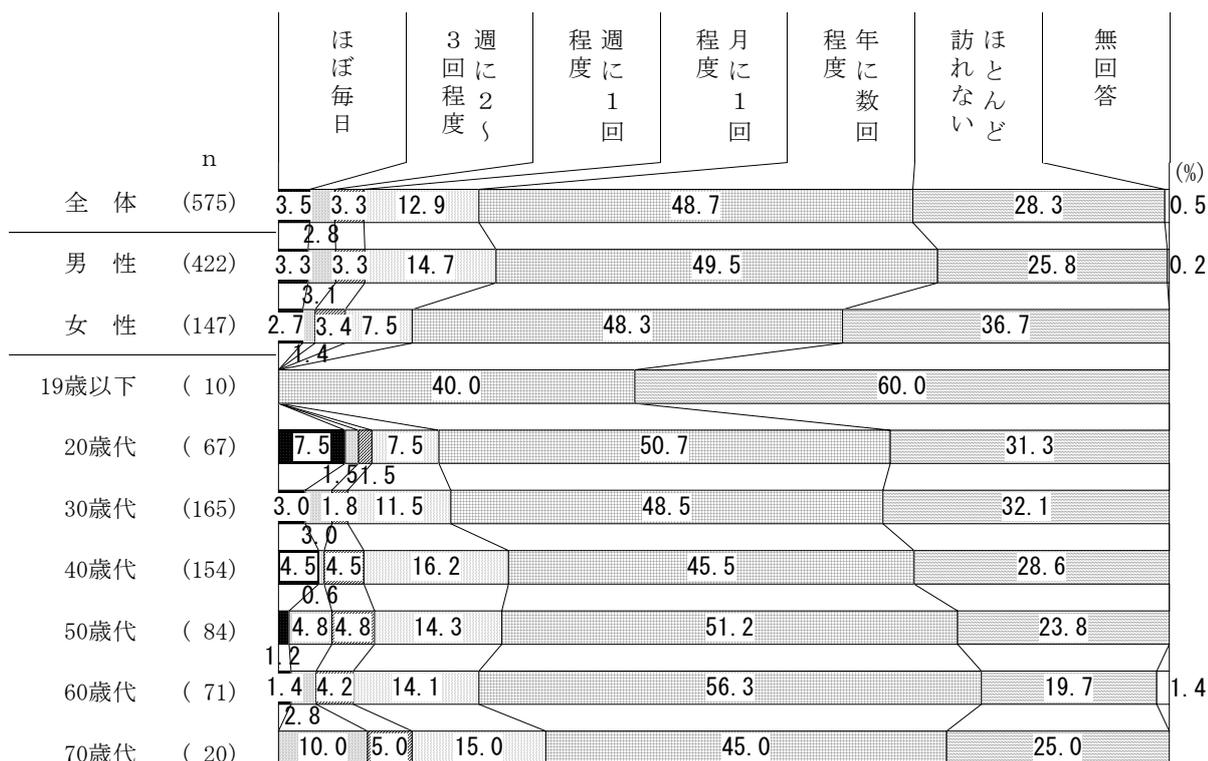


最近、1年間に市庁舎を訪れた回数は、「年に数回程度」が48.7%で、「月に1回程度」は12.9%、「週に1回程度」から「ほぼ毎日」の人は9.6%となっている。一方、「ほとんど訪れない」も28.3%となっている（図表2-1）。

性別で見ると、「月に1回程度」は男性（14.7%）が女性（7.5%）を7ポイント上回っており、男性の方が利用頻度が高い。一方、「ほとんど訪れない」では女性が36.7%と多く、男性（25.8%）を11ポイント上回っている。

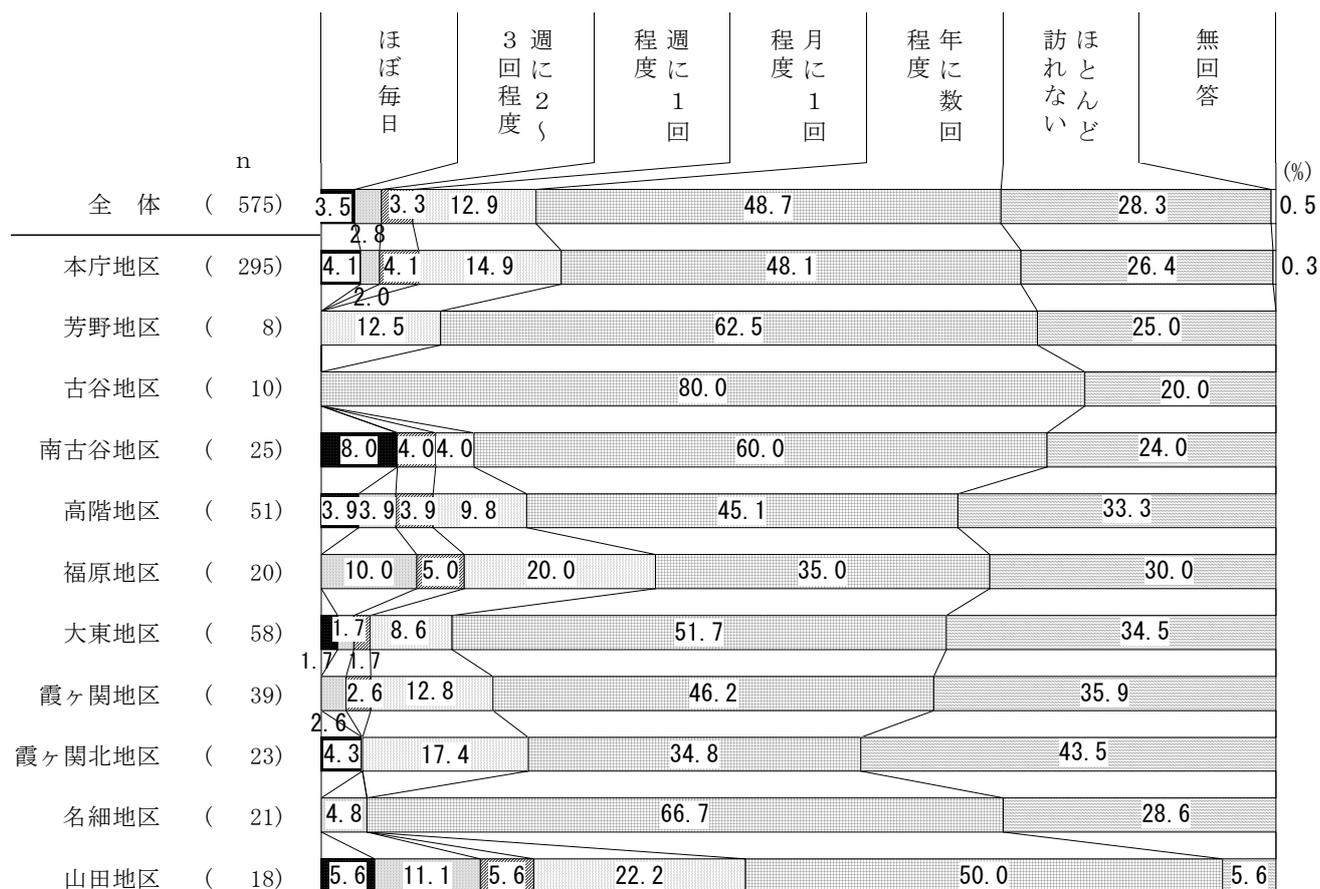
年齢別で見ると、各年代で「年に数回程度」が多く、20歳代、50歳代、60歳代で半数以上を占める。一方、「ほとんど訪れない」は20歳代と30歳代で3割台と比較的多くなっている（図表2-2）。

図表2-2 性別、年齢別 最近1年間での市庁舎の利用頻度



地区別で見ると、全体的に回答者数が少ないため参考程度となるが、各地区で「年に数回程度」が多く、福原地区、霞ヶ関北地区を除いて4割以上となっている。山田地区、福原地区では「月に1回程度」が2割台となり、他の地区と比べて利用頻度が多くなっている。一方、「ほとんど訪れない」は霞ヶ関北地区で4割台と比較的多くなっている（図表2-3）。

図表2-3 地区別 最近1年間での市庁舎の利用頻度

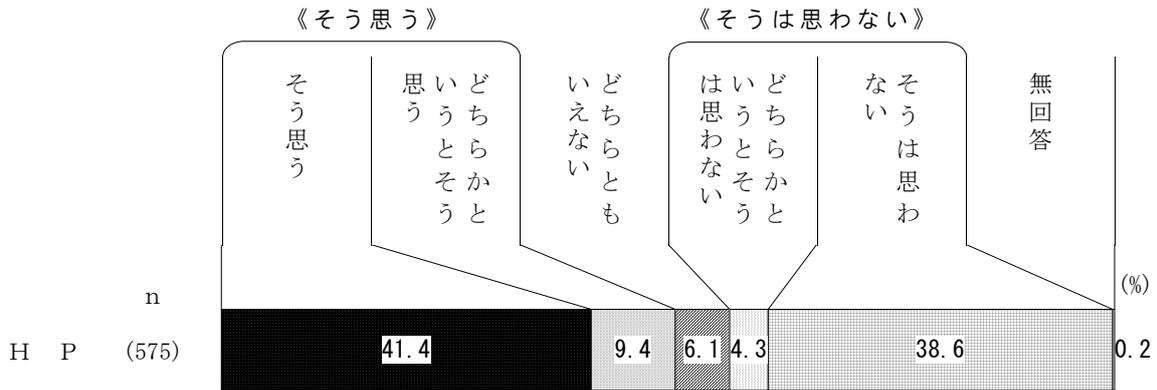


3. 新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思うか

問6 新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思いますか。

(○は1つ)

図表 3 - 1

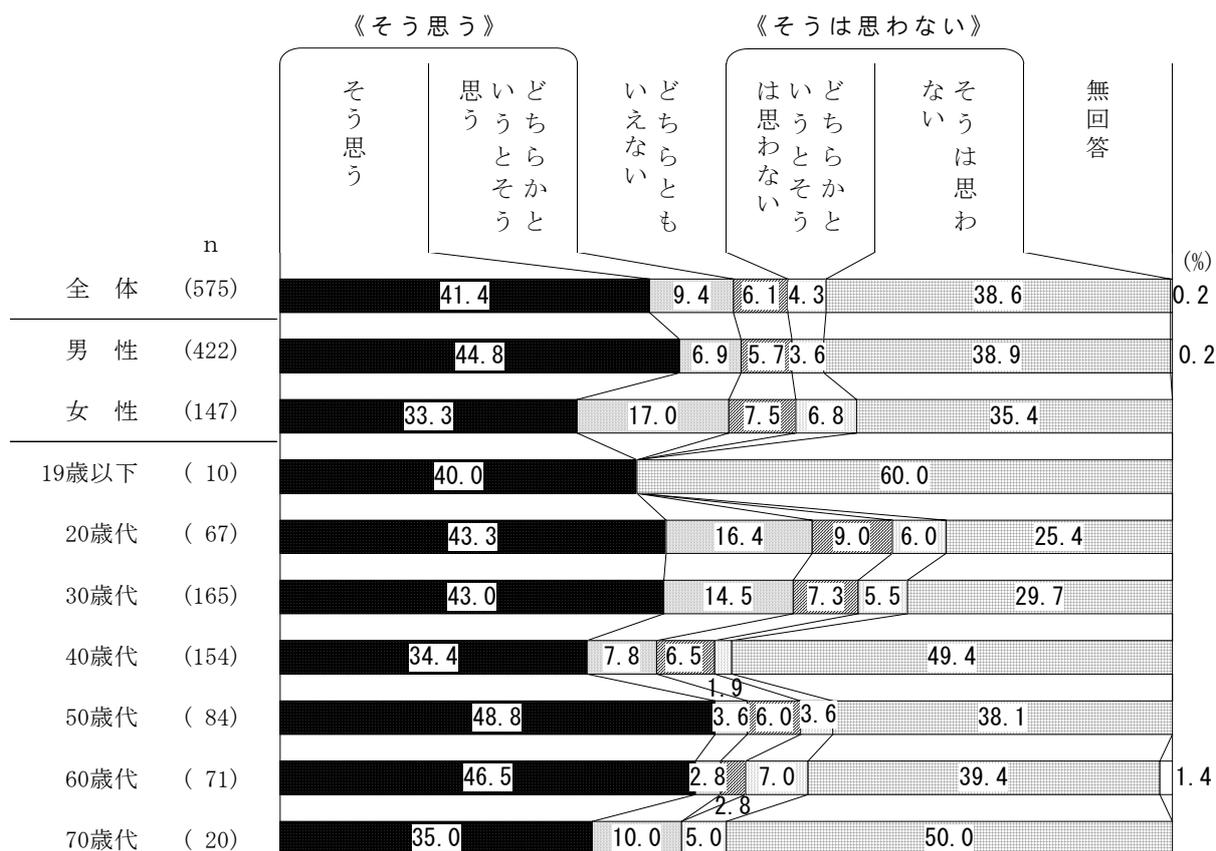


新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思うかということに「そう思う」は41.4%、「どちらかというと思う」は9.4%となっており、両者をあわせた《そう思う》は50.8%と半数を超えている。一方、「そうは思わない」(38.6%)と「どちらかというとそうは思わない」(4.3%)をあわせた《そうは思わない》は42.9%となっている(図表3-1)。

性別で見ると、《そう思う》、《そうは思わない》ではほとんど差がみられないが、「そう思う」では男性（44.8%）が女性（33.3%）を12ポイント上回っている。

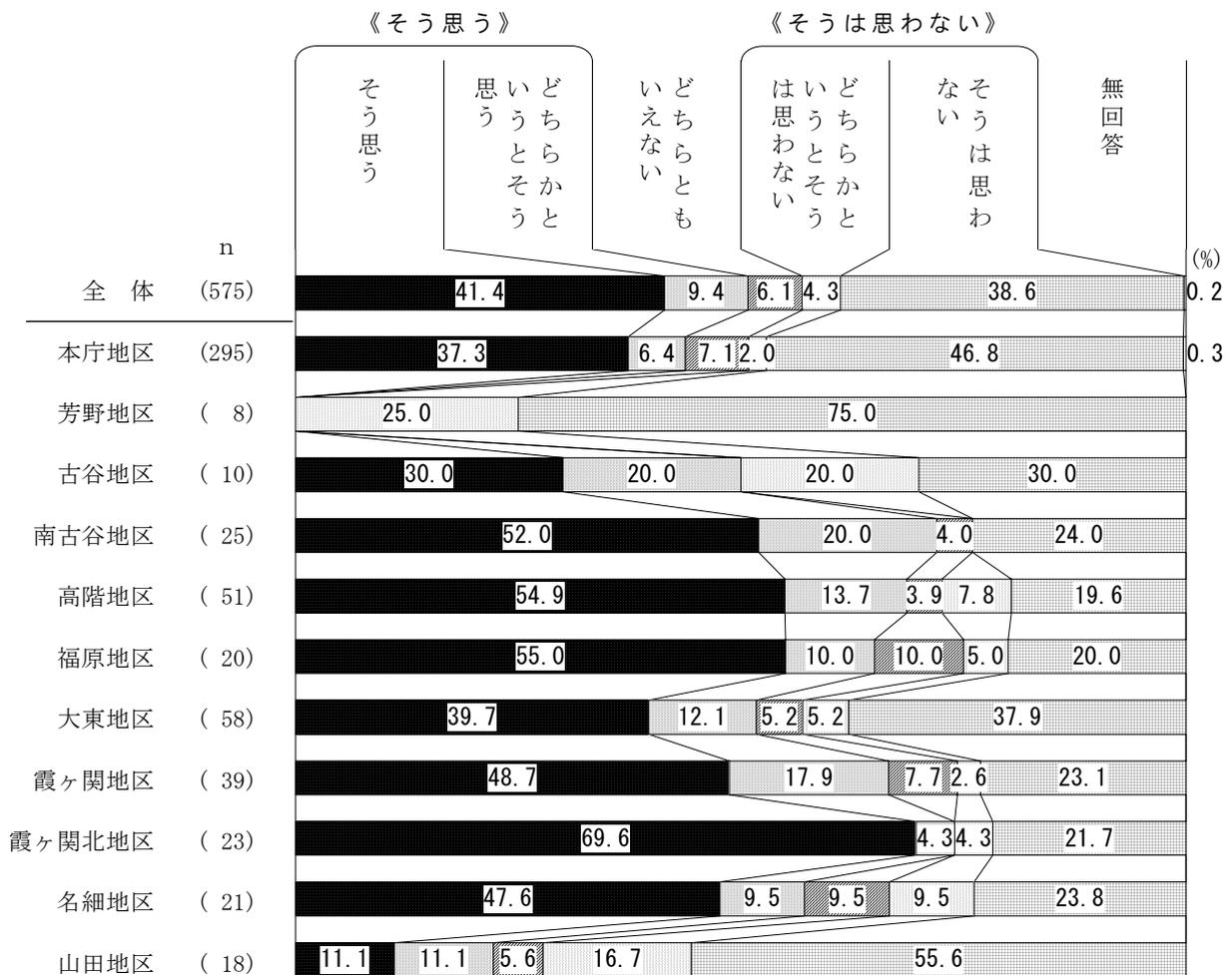
年齢別で見ると、《そう思う》は20歳代、30歳代、50歳代で半数以上を占めている。《そうは思わない》は40歳代で半数以上となっており、《そう思う》を上回っている（図表3-2）。

図表3-2 性別、年齢別 新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思うか



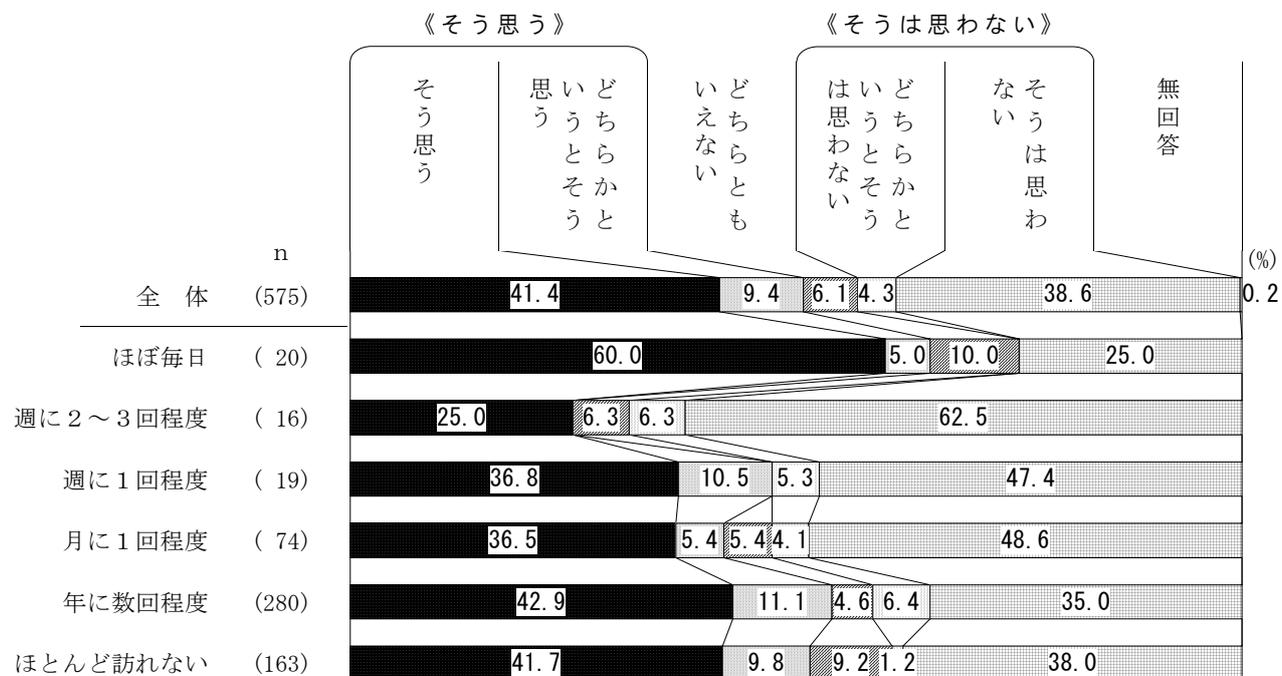
地区別でみると、全体的に回答者数が少ないため参考程度となるが、本庁地区や山田地区では《そうは思わない》が多く、霞ヶ関北地区、南古谷地区、高階地区、霞ヶ関地区、福原地区、名細地区、大東地区では《そう思う》が半数以上を占めている（図表 3-3）。

図表 3-3 地区別 新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思うか



市庁舎の利用頻度別でみると、《そう思う》は“年に数回程度”、“ほとんど訪れない”といった利用頻度の低い層で半数を超えて多くなっている。《そうは思わない》は“月に1回程度”で半数を超えて多くなっている（図表3-4）。

図表3-4 利用頻度別 新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思うか

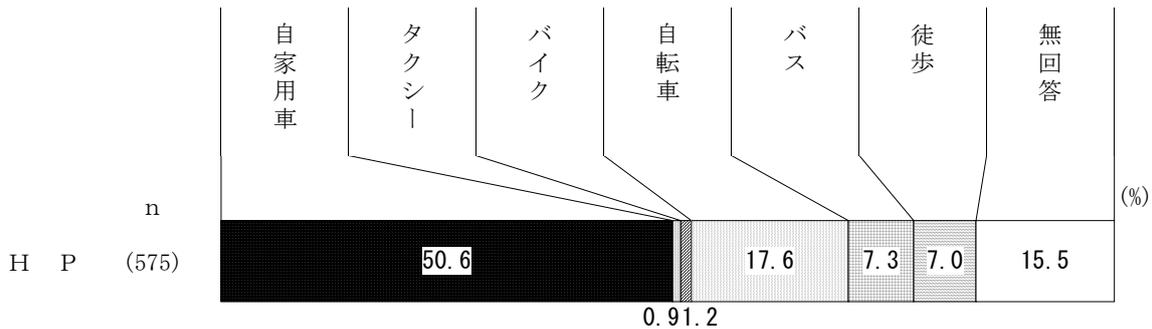


4. 現在の市庁舎までの主な交通手段

問7 交通手段（問5で「ほとんど訪れない」を選択された場合には、仮に訪れるとした場合の交通手段）をご回答ください。

（1）現在の市庁舎までの主な交通手段は、何ですか。（○は1つ）

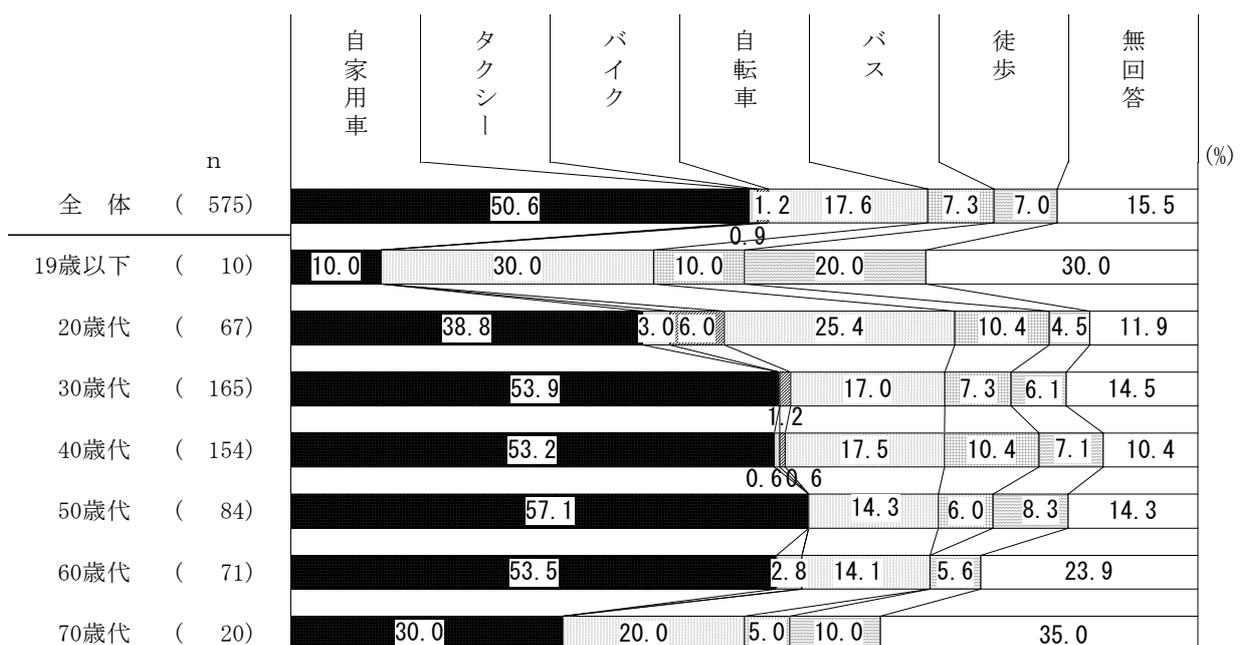
図表4-1



現在の市庁舎までの主な交通手段は「自家用車」が50.6%と半数を超えている。この他に「自転車」が17.6%が続いている（図表4-1）。

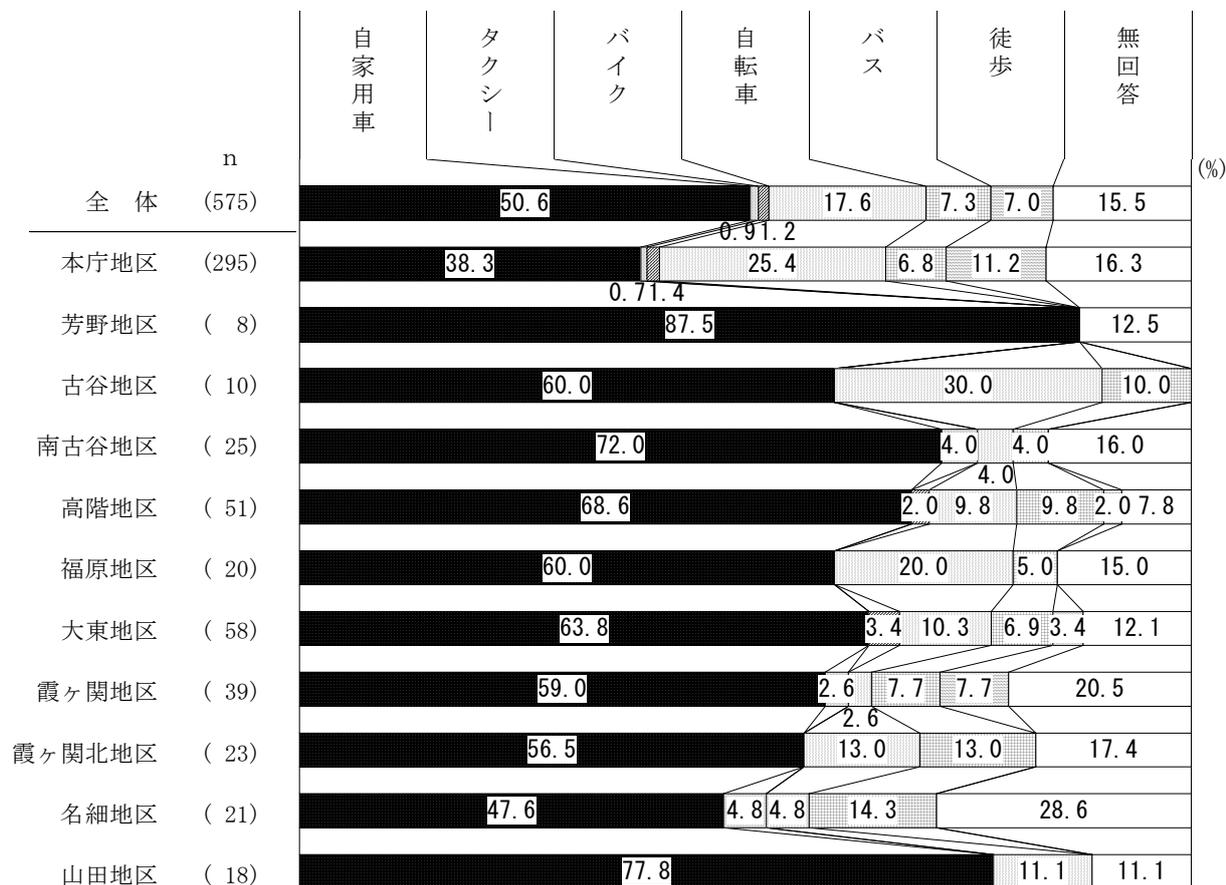
年齢別でみると、「自家用車」は各年代で多くなっており、30歳代から60歳代で半数以上を占めている。「自転車」は各年代で「自家用車」に次いで多くなっている（図表4-2）。

図表4-2 年齢別 現在の市庁舎までの主な交通手段



地区別で見ると、全体的に回答者数が少ないため参考程度となるが、すべての地区で「自家用車」が多くなっている。また、「自転車」は古谷地区、本庁地区、福原地区で比較的多くなっている（図表4-3）。

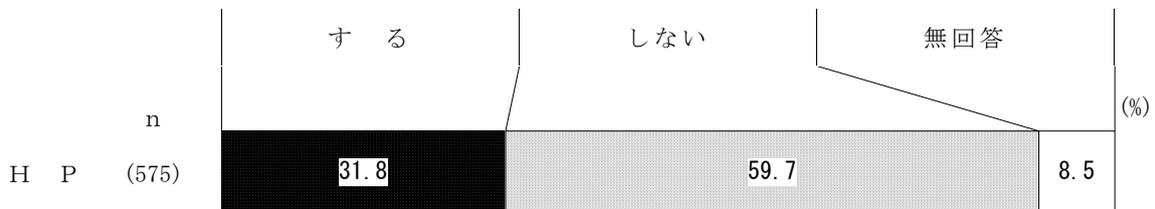
図表4-3 地区別 現在の市庁舎までの主な交通手段



5. 市庁舎を川越駅西口に移転した場合の電車やバスの利用

(2) 市庁舎を川越駅西口に移転した場合、電車やバスをご利用されますか。
(○は1つ)

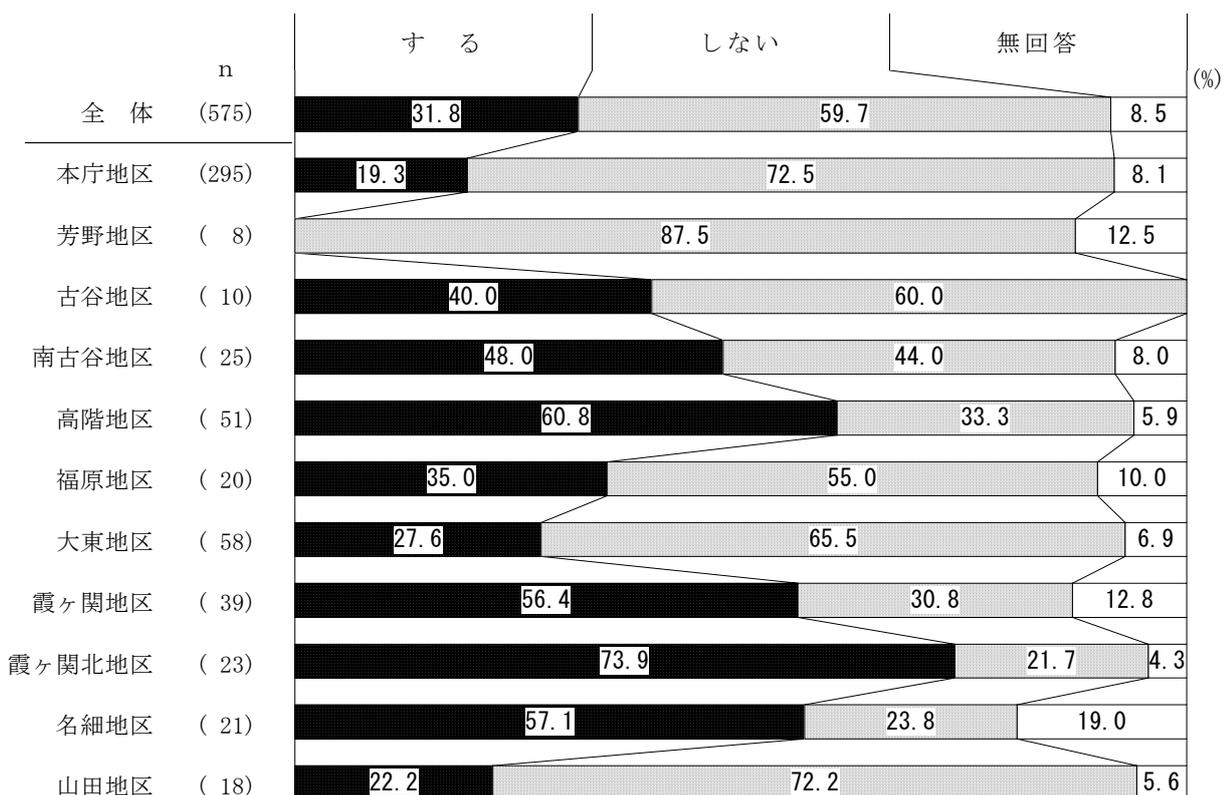
図表 5 - 1



市庁舎を川越駅西口に移転した場合の電車やバスの利用を「する」は31.8%、「しない」は59.7%となっており、利用しない人が利用する人を28ポイント上回っている(図表5-1)。

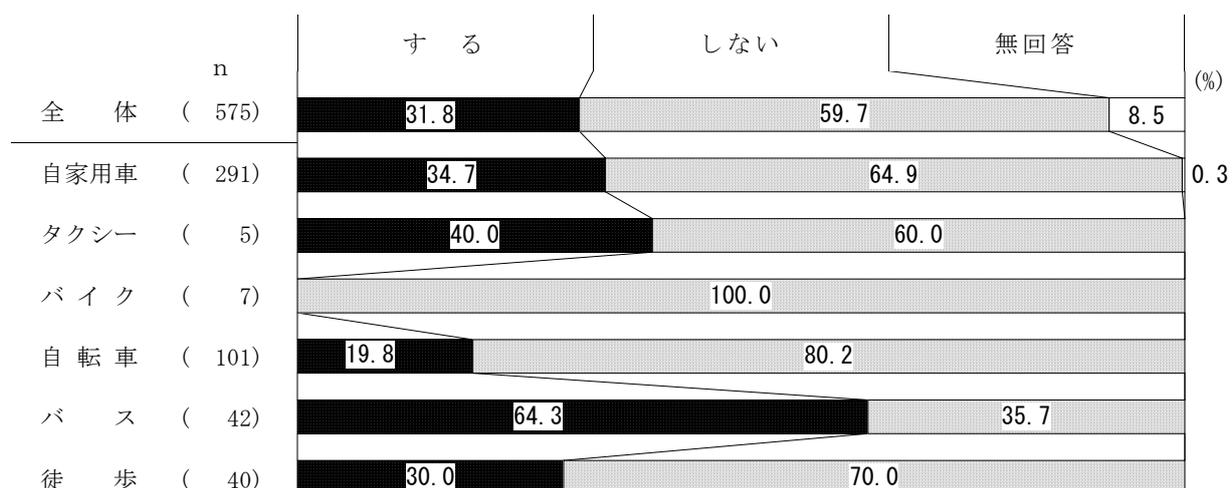
地区別で見ると、全体的に回答者数が少ないため参考程度となるが、「する」は、霞ヶ関北地区、高階地区、名細地区、霞ヶ関地区で半数以上を占め、「しない」を上回っている。「しない」は芳野地区、本庁地区、山田地区、大東地区、古谷地区、福原地区で半数以上を占め、「する」を大きく上回っている(図表5-2)。

図表 5 - 2 地区別 市庁舎を川越駅西口に移転した場合の電車やバスの利用



現在の市庁舎までの主な交通手段別で見ると、現在、自家用車を利用している人では「する」が34.7%となり、3割台半ばの人が公共交通機関の利用意向を示している。この他の「する」に着目すると、バスが6割台と多くなっている（図表5-3）。

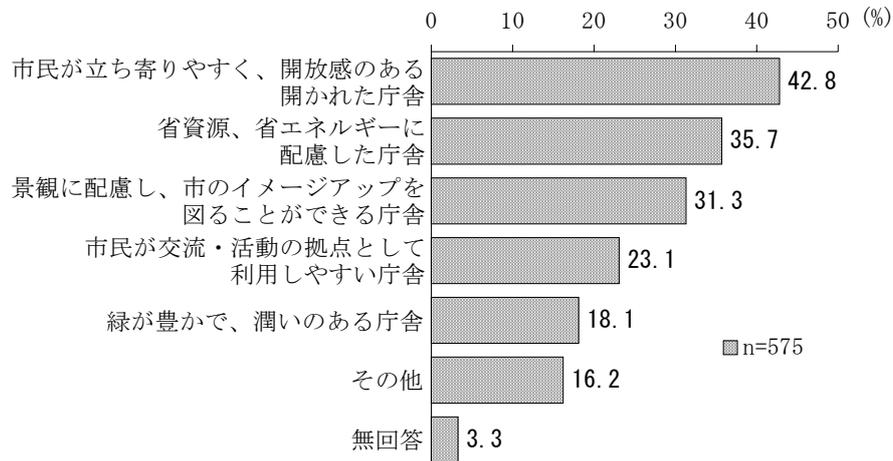
図表5-3 現在の市庁舎までの主な交通手段別
市庁舎を川越駅西口に移転した場合の電車やバスの利用



6. 新しい市庁舎の望ましいイメージ

問8 新しい市庁舎は、どのようなイメージが望ましいと思いますか。
(○は2つ以内)

図表6-1



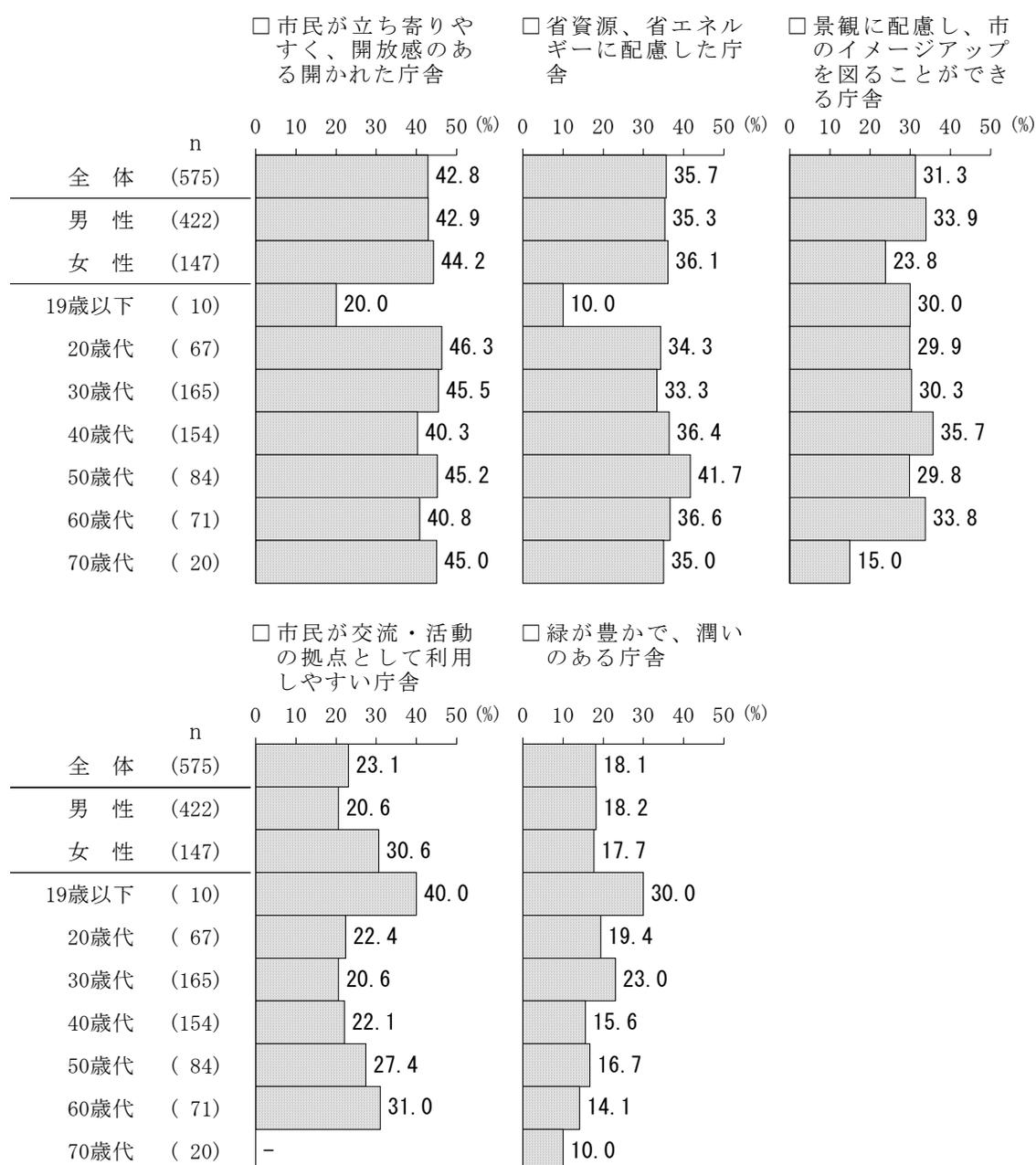
新しい市庁舎の望ましいイメージは、「市民が立ち寄りやすく、開放感のある開かれた庁舎」が42.8%で最も多く、以下、「省資源、省エネルギーに配慮した庁舎」(35.7%)、「景観に配慮し、市のイメージアップを図ることができる庁舎」(31.3%)、「市民が交流・活動の拠点として利用しやすい庁舎」(23.1%)、「緑が豊かで、潤いのある庁舎」(18.1%)と続いている(図表6-1)。

なお、「その他」の主なものとしては、“コストをかけないこと”、“必要最小限でシンプルなもの”、“小江戸のイメージ・蔵づくり”などがあげられている。

性別で見ると、「景観に配慮し、市のイメージアップを図ることができる庁舎」は男性（33.9%）が女性（23.8%）を10ポイント上回っている。一方、「市民が交流・活動の拠点として利用しやすい庁舎」は女性（30.6%）が男性（20.6%）を10ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「市民が立ち寄りやすく、開放感のある開かれた庁舎」は各年代で多く、世代を超えた希望となっている。「省資源、省エネルギーに配慮した庁舎」は50歳代で4割台と多く、この他、「市民が交流・活動の拠点として利用しやすい庁舎」は60歳代で3割台、「緑が豊かで、潤いのある庁舎」は30歳代で2割台と比較的多くなっている（図表6-2）。

図表6-2 性別、年齢別 新しい市庁舎の望ましいイメージ

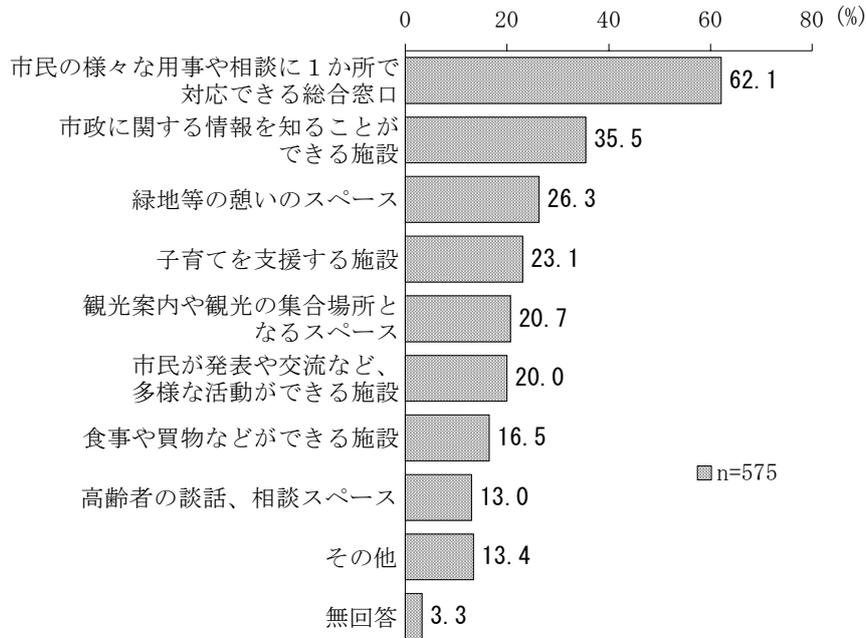


7. 新しい市庁舎に望む機能や施設

問9 新しい市庁舎にあるとよい機能や施設は何だと思いますか。

(○は3つ以内)

図表 7-1



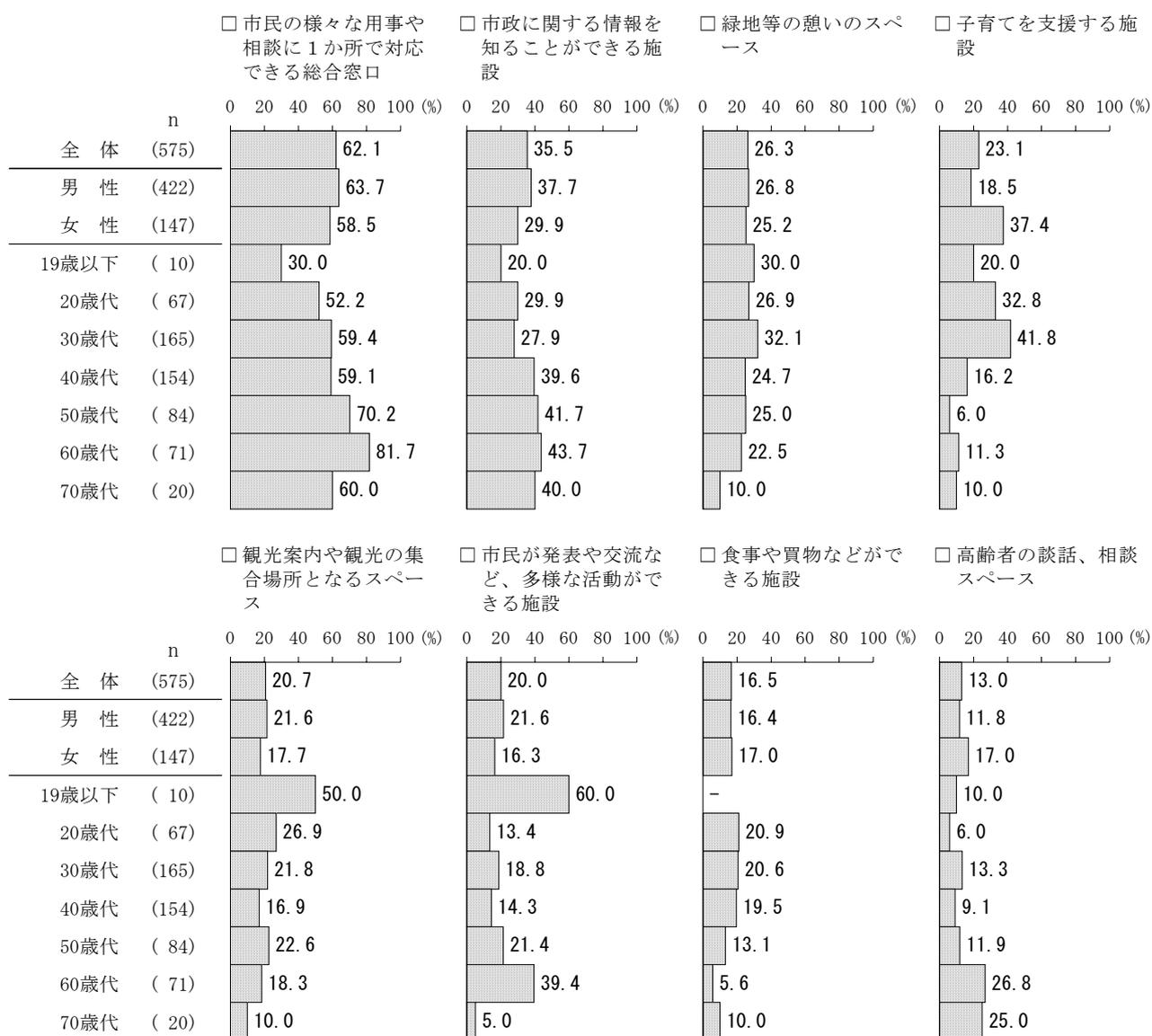
新しい市庁舎に望む機能や施設は、「市民の様々な用事や相談に1か所で対応できる総合窓口」が62.1%と特に多く、以下、「市政に関する情報を知ることができる施設」(35.5%)、「緑地等の憩いのスペース」(26.3%)、「子育てを支援する施設」(23.1%)、「観光案内や観光の集合場所となるスペース」(20.7%)と続いている(図表7-1)。

なお、「その他」の主なものとしては、“現在のままでよい・必要最小限でよい”、“建設に反対”などがあげられている。

性別で見ると、「子育てを支援する施設」は女性（37.4%）が男性（18.5%）を19ポイント上回っている。「市政に関する情報を知ることができる施設」は男性（37.7%）が女性（29.9%）を8ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「市民の様々な用事や相談に1か所で対応できる総合窓口」はいずれの年代からも最も多くあげられており、かつ年代があがるとともに高くなる傾向がある。また、「市政に関する情報を知ることができる施設」も年代があがるとともに多くなる傾向がある。「市民が発表や交流など、多様な活動ができる施設」は60歳代で約4割、「高齢者の談話、相談スペース」は60歳代以降で2割台と比較的多くなっている。一方、20歳代、30歳代からは「子育てを支援する施設」が多くあげられている（図表7-2）。

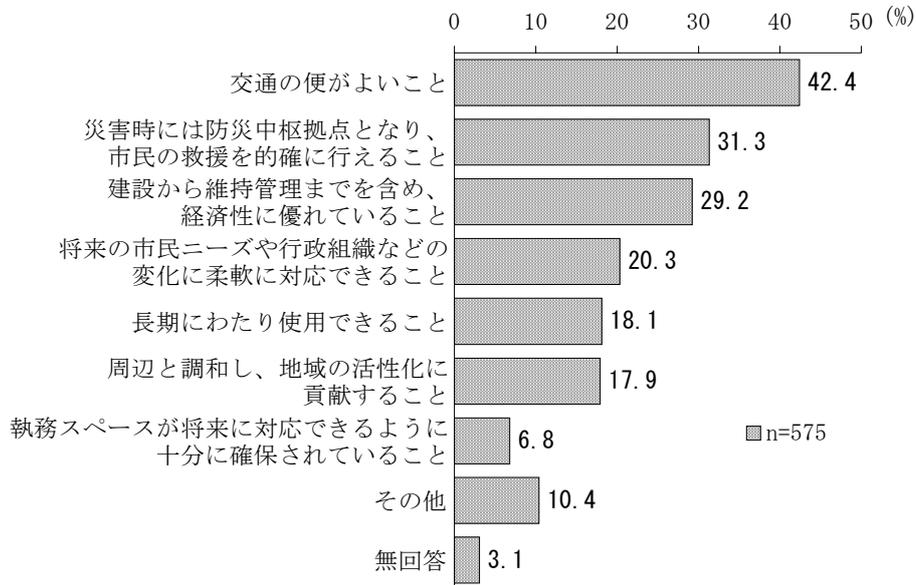
図表7-2 性別、年齢別 新しい市庁舎に望む機能や施設



8. 新しい市庁舎の建設で重視すべきこと

問10 新しい市庁舎を建設する場合、重視しなければならないことは何だと思いますか。(○は2つ以内)

図表 8 - 1



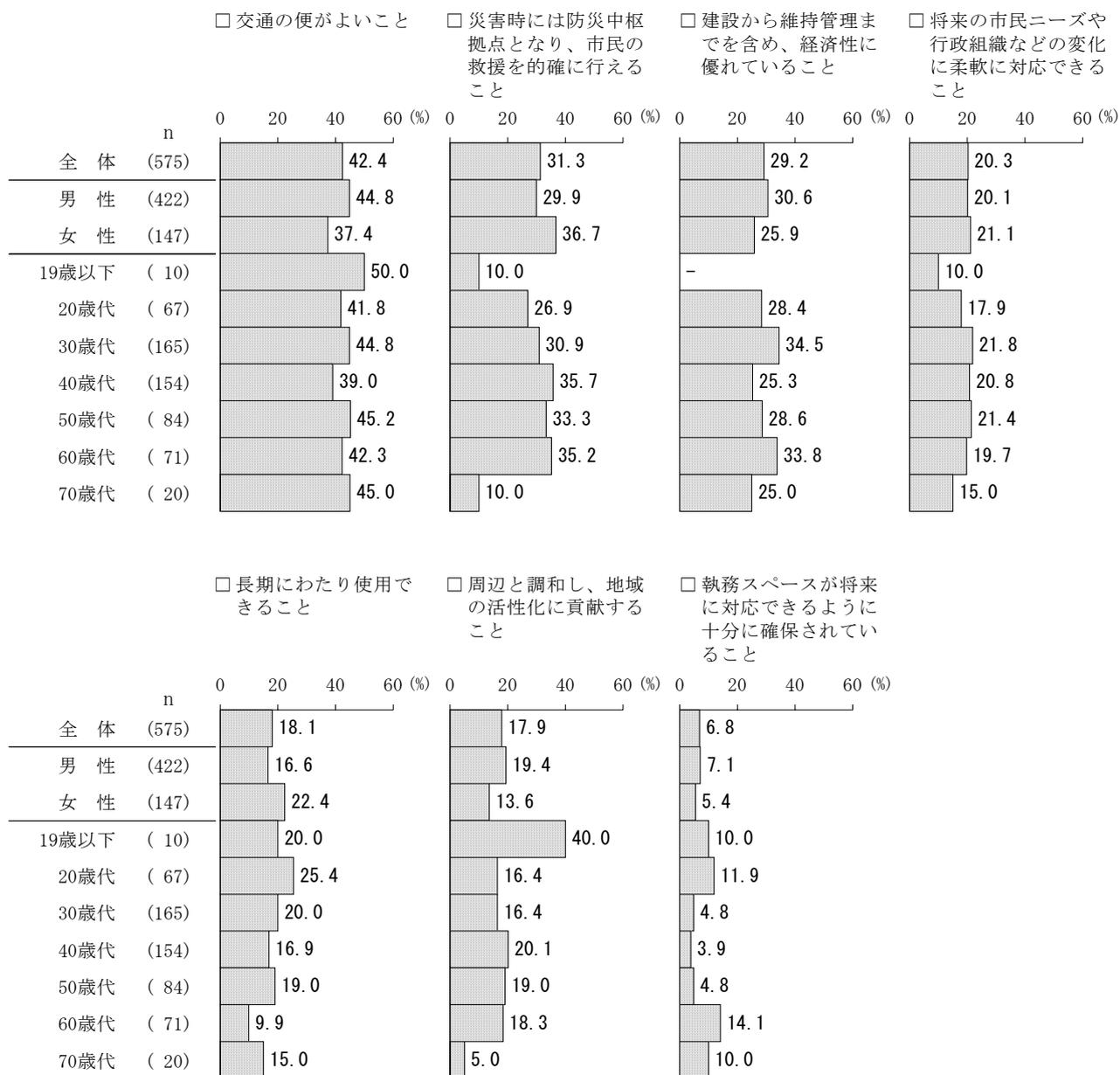
新しい市庁舎の建設で重視すべきことは、「交通の便がよいこと」が42.4%で最も多く、以下、「災害時には防災中枢拠点となり、市民の救援を的確に行えること」(31.3%)、「建設から維持管理までを含め、経済性に優れていること」(29.2%)、「将来の市民ニーズや行政組織などの変化に柔軟に対応できること」(20.3%)、「長期にわたり使用できること」(18.1%)などが続いている(図表8-1)。

なお、「その他」の主なものとしては、“コスト抑制”、“建設の必要なし”などがあげられている。

性別でみると、「災害時には防災中枢拠点となり、市民の救援を的確に行えること」は女性(36.7%)が男性(29.9%)を7ポイント、「長期にわたり使用できること」は女性(22.4%)が男性(16.6%)を6ポイント上回っている。一方、「交通の便がよいこと」は男性(44.8%)が女性(37.4%)を7ポイント、「周辺と調和し、地域の活性化に貢献すること」は男性(19.4%)が女性(13.6%)を6ポイント上回っている。

年齢別でみると、「交通の便がよいこと」はいずれの年代からも多くあげられている。「建設から維持管理までを含め、経済性に優れていること」は30歳代、60歳代で3割台、「長期にわたり使用できること」は20歳代で2割台半ば、「周辺と調和し、地域の活性化に貢献すること」は40歳代から60歳代で2割前後と比較的多くなっている(図表8-2)。

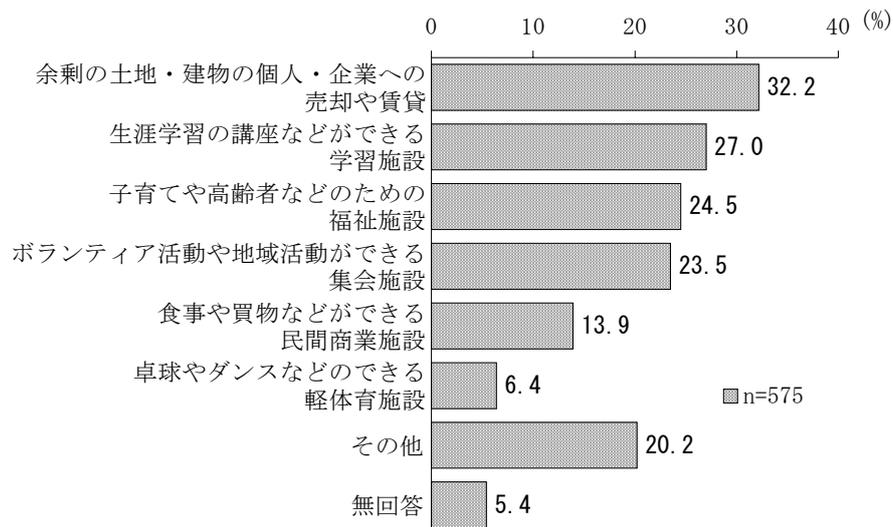
図表8-2 性別、年齢別 新しい市庁舎の建設で重視すべきこと



9. 移転後の現在の市庁舎の活用

問 11 市庁舎を移転した場合には、現在の市庁舎に市役所の窓口機能を残し、観光拠点等として有効活用を図るよう検討していく予定ですが、それ以外にどのように活用したらよいと思いますか。(〇は2つ以内)

図表 9 - 1



移転後の現在の市庁舎の活用は、「余剰の土地・建物の個人・企業への売却や賃貸」が32.2%で最も多く、「生涯学習の講座などができる学習施設」(27.0%)、「子育てや高齢者などのための福祉施設」(24.5%)、「ボランティア活動や地域活動ができる集会施設」(23.5%)が2割台で続いている(図表9-1)。

なお、「その他」の主なものとしては、“移転の必要なし・移転に反対”、“駐車場”、“観光施設(川越城、大手門復元、山車集結)”などがあげられている。

性別で見ると、「子育てや高齢者などのための福祉施設」は女性(35.4%)が男性(21.1%)を14ポイント上回り、「食事や買物などができる民間商業施設」は男性(16.1%)が女性(7.5%)を9ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「生涯学習の講座などができる学習施設」や「ボランティア活動や地域活動ができる集会施設」は年代があがるとともに高くなる傾向がある。「子育てや高齢者などのための福祉施設」は20歳代と30歳代で多くなっている(図表9-2)。

図表9-2 性別、年齢別 移転後の現在の市庁舎の活用

